



花の散る

拍子に急ぐ

小鮎かな

小林一茶

花びらが川面に落ちたとたんに、小アユがおどろいて泳いで逃げた去った様子を詠んだ句です。

街のあちこちで目にする初々しい新社会人を、四十数年前の自分について重ね合わせて見えています。いつの時代も新入社員には、希望と不安がつきものです。中でも最近は、職場の人間関係に不安を持つ若者が多いようです。

新入社員の意識調査によると、身に付けたい能力「対人対応力」≡コミュニケーション能力≡想像力≡決断力≡仕事の処理能力≡上司・先輩との人間関係」が上位を占めています。

期待に胸を膨らませ一歩を踏み出した新社会人に望みたいことの第1位が「あいさつをする」です。気持ちよくあいさつをし、キラキラしている新人の言動に、自分がなくしてしまったものに気付かさ

れることがあります。

スーパーで包装のビニール袋が破れていて苦情を言うときに「マジですか?」と店員さんに言われびびくりしたことがあります。「正しい日本語を使う」「敬語を正しく使う」ことも、新社会人に望みたいことの上位にあります。

声を出さず、目も合わさず、ちよつと会釈するだけで「おはよう」と言わない職場があるようです。あいさつしても目も顔も合わさらないで、パソコン相手に「ん」とうなずくだけで、言葉を発しない人が増えているようです。

メールでは「おはよう」と発信するけれど、言葉では言わない人が多いのも事実です。

上京の際に一流企業の入っている高層オフィスビルに行く機会がありますが、警備員が「おはようございます」と声を掛けても、出社してくる

社員の誰一人として「おはようございます」とあいさつを返すことなく、早々にエレベーターに乗り込む場面を目にします。

訪問者である私は、気まずい雰囲気を感じるのですが、これが当たり前になってしまふと何の不自然さも感じなくなってしまうのでしょうか。

桜花が散つて「年月は、人間の救いである。忘却は、人間の救いである」たさいちのひ太宰治の言葉です。忘れ去ることも時には必要ですが、年を重ねても肝心なことは忘れてほしくないと思っています。

「初心忘るべからず」心したいものです。



指宿市長
豊留悦男